

二小の風

学校通信

令和2年3月24日

3月号

天理市立二階堂小学校

文責 北野 博康

<http://academic1.plala.or.jp/nisyo/>



突然の臨時休業

— 当たり前前のことを見直す機会に —

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、3月2日より臨時休業となり、令和元年度は、修了式もできないまま終わってしまいました。式では、子どもたちの成長をいっぱいほめてあげて終わりたかったのですが、それも叶いませんでした。

3月には、最後の締めくくりの学習や学級での楽しい行事も予定していましたが、何もできずに終わってしまうことが悔やまれてなりません。特に6年生にとっては、小学校生活最後の1ヶ月は、思い出づくりの重要な期間でしたから、全校集会で臨時休業を伝えるのは、本当に辛く、悲しかったです。

ご家庭におかれましても、突然、学校が休業となり、お仕事をお持ちの保護者の皆さんも多い中、生活が一変してしまったこととお詫び申し上げます。

それだけにこれまで毎日当たり前で過ごしていたこと、明日があると先延ばしにしていたことを見直す機会となりました。毎日学校に行っていて、苦手な勉強に取り組むことも友達と遊んでいてトラブルになることだって、ある面幸せなことかもしれません。当たり前であることが決して当たり前ではないのです。1日1日を大切に過ごすことの大切さを改めて感じられたこの1ヶ月でした。

体験入学・給食体験【1年・5年】(2月21日)

来年度、入学する幼稚園や保育所の園児が小学校に来て、体験入学を行いました。校舎内を案内してもらい、1年生教室に入りました。授業の様子を見学した後、鉛筆を持って線なぞりを体験しました。1年生が横について鉛筆の持ち方などをアドバイスしたのですが、1年生の成長が感じられました。

その後、来年度最高学年として新1年生との関わりが深い5年生とゲームでふれあい、一緒に給食を食べました。5年生が優しく接してくれたからでしょうか、緊張していた園児ですが、すっかり打ち解け、とてもいい関係ができました。



感謝の気持ちで6年生を送る会(2月27日)

お世話になった感謝の気持ちを込めて、6年生を送る会を行いました。新しい児童会役員の初仕事です。花のアーチをくぐり、照れくさそうに入場してきた6年生は、いつもと違い、一番前に座り、各学年からの出し物を楽しみました。

6年間のエピソードが盛り込まれた出し物の劇やクイズや漫才に、6年生は懐かしく思い出していました。会場も大きな笑いがおきていました。発表とともに、各学年から感謝の言葉やお祝いの言葉があり、心温まる言葉のシャワーを浴びながら幸せな一時を過ごすことができました。

最後は、6年生から6年間の思いを込めた合奏「ありがとう」がありました。そして、1年生から6年生に手作りの写真立てのプレゼント



があり、6年生からは、分団旗とマスコットキーホルダーを学校にプレゼントしてくれました。心温まる会でした。



思い出に残る卒業式(3月19日)

令和元年度の卒業式は、卒業生、保護者の皆さん、教職員だけで執り行いました。担任から名前を呼ばれ、卒業生は、6年間の思いを込めた「はい」の力強い返事をしてくれ、一人一人に証書を手渡しました。その後、在校生がいない中、お別れの言葉・「旅たちの日に」の歌がありました。練習もできていなかったのですが、気持ちが伝わるいい内容でした。

臨時休業を発表した際には、号泣した子どもたちですが、卒業式ができた喜びと久々に友達や先生と会えたうれしさで笑顔いっぱいの卒業式となりました。

ありがとうございました。

3年間、二階堂小学校の校長を務めさせていただきました。心優しい子どもたち、教職員、温かな保護者の皆さんに支えられ、楽しい教職人生を終えることができました。本当にありがとうございました。



